

スーパー耐久シリーズ 2021 Powered by Hankook 第5戦 SUZUKA S 耐

2021年9月18日(土)～9月19日(日)
鈴鹿サーキット (三重県)
入場者数：9月18日 1,700人
9月19日 4,600人



速さで繋ぐ5ステイント作戦で追い上げ
助っ人高木を加えた第5戦は5位に

FREE PRACTICE

8月1日に行われた第4戦の決勝レースでは、まさかのトラブルで後退。それでも、レースを重ねるごとにポテンシャルを上げ、ライバルも警戒する存在となったTKRI 松永建設 AMG GT4。迎えた第5戦は世界に誇る名コース、鈴鹿サーキットが舞台だが、そんな一戦に向けて、DAISUKEいわく“豪華ゲスト”がチームに加わった。頼もしいその男の名は高木真一。GT300チャンピオンで、2020年もスーパー耐久で活躍した大ベテランドライバーだ。勝負どころを任せることもでき、元嶋佑弥の速さを活かす戦略を立てることもできる。

そんな高木は「良い意味でクールですね(笑)」と9月16日(木)の特別スポーツ走行から、

TKRIのチームにすんなりと溶けこみながら、3人のドライバーたちが走行をスタートさせた。高木はメルセデス AMG はGT3の経験があるが、GT4は初めて。その違いに慣れながらも、曇り空のもと周回を重ねていった。

明けた9月17日(金)は、午前10時30分からグループ1の専有走行がスタートした。ただ、直前まで行われていたグループ2まではドライコンディションだったものの、グループ1から台風14号の影響を受けた雨が降り出してしまった。TKRI 松永建設 AMG GT4は元嶋が中心になって周回を重ね、まだ路面がそこまで濡れていなかった2周目に2分15秒964をマーク。2番手で午前の走行を終えた。



午後の混走の専有走行は雨脚は強くなってしまい、難しいコンディションとなったが、TKRI 松永建設 AMG GT4はふたたび元嶋がドライブ。高木も乗り込み、今季から使用されているハンコックタイヤを体験した。

9月17日 スーパー耐久 STEL 専有 Gr.1 結果

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	311	TOYOTA GR SUPRA GT4	2'14.960
2	23	TKRI 松永建設 AMG GT4	2'15.984
3	22	WAIMARAMA EBI Cayman GT4	2'17.988
4	111	Access HIROSHIMA+ GR SUPRA GT4	2'18.309
5	108	アスラダ Ver. Supra	2'18.600

9月17日 スーパー耐久 STEL 専有 Gr.1+2 結果

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	47	D'station Vantage GT4	2'35.883
2	3	ENDLESS AMG GT4	2'36.138
3	108	アスラダ Ver. Supra	2'36.743
9	23	TKRI 松永建設 AMG GT4	2'39.802

QUALIFY

9月18日(土)は当初、午前中にフリー走行が用意されていたが、台風14号の影響で前日のうちにスケジュールが変更され、午前はキャンセルに。午後1時から予定された公式予選も午後2時から、天候回復の方向だったことからAドライバー予選とBドライバー予選の順番が入れ替えられた。

午後2時からの予選を前に、昼ごろから晴天となった鈴鹿は、急速に路面も乾きドライ

に。まずはBドライバーの元嶋佑弥がアタックするが、今回はライバル勢が速い。元嶋がきっちりアタックを決めるも、2分13秒200というベストタイムで4番手に。AドライバーのDAISUKEは、「ぶっつけ本番のアタックになり『そりゃないぜ』という気分です(笑)」といきなりのドライ路面への対応に苦戦。2分16秒908で8番手となった。Cドライバーの高木は6番手で予選を終えた。



9月18日 スーパー耐久 公式予選 Gr-1 AB 総合正式結果

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	311	FABULOUS GRMI GR SUPRAGT4	4'24.928
2	47	D'station Vantage GT4	4'27.545
3	108	アスラーダ Ver. Supra	4'28.478
8	23	TKRI 松永建設 AMG GT4	4'30.108

9月18日 スーパー耐久 公式予選 Cドライバー結果

Pos.	No.	Car Name	Total Time
1	47	D'station Vantage GT4	2'15.267
2	22	WAIMARAMA EBI Cayman GT4	2'16.446
3	3	ENDLESS AMG GT4	2'16.457
6	23	TKRI 松永建設 AMG GT4	2'16.643

RACE



性能調整があるとはいえ、ライバルたちのスピードの前に苦しい予選日となった9月18日から一夜明け、9月19日(日)の決勝日は前日まで、そして前戦とは違ってかわり青空のもと迎えた。気温もグングン上昇し、タイヤへの負荷が高い鈴鹿サーキットでは、レース中どんな戦略を採るか悩みどころだった。

予選8番手から表彰台を目指すために、TKRI 松永建設 AMG GT4が採った作戦は5スティント作戦。通常であれば4スティントだが、1回ピットストップを増やしてタイヤへの負荷を減らすとともに、ピットストップ時間を減らし前へ出ようという作戦だ。

午前11時30分からの決勝で8番手からスタートドライバーを務めたのは元嶋。作戦のためには、少しでもライバルたちをかわし、自分たちのペースで走らなければならない。元嶋は3周目にひとつポジションを上げるが、#20 BMWをなかなか抜くことができず、#500メ

ルセデス AMG との争いとなっていく。必死の走りをみせると、まずはライバルより先んじて23周目にピットイン。高木に交代した。

ピットストップ時間も比較的短く、高木のドライブで安定したラップを刻み始めたTKRI 松永建設 AMG GT4は、他車がその後1回目のストップを終えると「見せかけ」ではあるがトップに浮上する。ただ、当初の予定よりはマージンを稼げていない。本来は高木に続いてDAISUKEが乗り込む予定だったが、さらなるマージンを稼ぐためにふたたび元嶋をコクピットに戻し、48周から77周までという長丁場をドライブ。そこからふたたび高木が乗り込み、100周までを走りきった。表彰台を狙えるか……? ランキング首位の#3メルセデスAMGが速く、難しいタイミングでもあった。

そして100週のピットイン時点で、レースは3時間57分を経過していた。残り1時間は、Aドライバーとしての規定時間を果たすためにDAISUKEが頑張るしかない。チームの期待をのせてピットアウトしたDAISUKEは、昨日の予選の悔しさを晴らすべく力走をみせていく。

ただ、スティント序盤こそ2分20秒台から22秒台でラップを重ねていたDAISUKEだったが、少しずつタイムがパラつきはじめてしまう。またチームにとっても少々誤算だったが、気温が下がりがライバルたちのタイヤが保つようになってきたのだ。

DAISUKEは4番手をキープしてなんとかチェッカーを目指していたが、125周目、#108 GR Supraにかわされ5番手に。6番手につけていた#885 GR Supraとは大きな差がついておりポジションはゆるがなかったが、最後は5位でチェッカーを受けた。

速さで追い上げをみせたことは嬉しいところだったが、4位、3位もひよっとすると狙えたかもしれない。わずかな一抹の悔しさを晴らすべく、チームは今季最終戦の岡山へと挑む。



DRIVER'S VOICE



DAISUKE

鈴鹿サーキットはやっぱり、付け焼き刃では通用しませんね。昨年は開催されず、今回が AMG GT4 で走る初めてのレースでしたが、ただでさえ私は関東の人間で走る機会が少なく、走り込みが足りないことを痛感しました。今回は高木真一選手に加わっていただき、良い形でレースウィークを作ることができましたが、まだまだ自分の速さが足りません。2022年は鈴鹿中心に走り込みたいと思います(苦笑)。次戦は岡山国際サーキットでの最終戦ですが、今回の反省も含めて気合でいきたいと思います！ ぜひ次戦も応援よろしくお願いたします。



元嶋 佑弥 YUYA MOTOJIMA

今回は高木選手も加わり、週末を通じてレースの組み立て方やレースウィークの過ごし方など多くのことを勉強させていただきましたし、DAISUKE 選手のドライビングも含めて、チームとしてはまたひとつレベルは上がったのではないのでしょうか。今回は4スティントか5スティントか難しいところではありましたが、全体のコース上でのトラブルもなく、純粋に速さの勝負となりました。ここが自分たちの立ち位置ですが、でもレベルは上がりましたよね(笑)。まだまだ上がると思いますので、こういった速さが求められるレースで表彰台に立てるようにしたいですね。



高木 真一 SHINICHI TAKAGI

GT4車両も初めてでスーパー耐久も1年ぶりのレースとなりました。これまで最上位のカテゴリ一ばかり出ていましたが、市販車に近いクルマでイコールコンディションも保たれていましたし、またハンコックタイヤも初めてでした。勉強になることばかりでしたね。抜くことも抜かれることも体験して、僕自身も楽しかったです。結果としては5位でしたが、みんながミスなく走ることができたのは良かったのではないのでしょうか。優勝した経験があるチームなので、もっと速くなっています。最終戦は僕は出場しませんが、これからも応援していきたいと思っています。

9月19日 スーパー耐久 決勝レース結果

Pos.	No.	Car Name	Laps	Total Time	Gap
1	47	D'station Vantage GT4	128	5:02'19.885	
2	311	FABULOUS GRMI GR SUPRAGT4	128	5:03'13.501	53.616
3	3	ENDLESS AMG GT4	128	5:03'27.419	1'07.534
4	108	アスラーダ Ver. Supra	127	5:02'46.071	1Lap
5	23	TKRI 松永建設 AMG GT4	127	5:02'53.880	1Lap
6	885	林テレンプ SHADERACING GR SUPRA GT4	127	5:03'39.399	1Lap
7	500	5ZIGEN AMG GT4	126	5:01'55.832	2Laps
8	20	SS/YZ Studie BMW	126	5:02'03.263	2Laps

